



マインブルク市民からのプレゼント



民族衣装 ディアンドル

ドイツの民族衣装は地域によって異なります。これは「ディアンドル (Dirndl)」と呼ばれる、マインブルクがある南ドイツ・バイエルン州の民族衣装です。腰にあるリボンの位置が左側の場合は「恋人がいない」、右側は「恋人がいる、結婚している」などの意味があります。



ビールジョッキ

バイエルン州ミュンヘン市では、9月下旬からの約2週間「オクトーバーフェスト」と呼ばれる世界最大規模の伝統的なビール祭りが開催されます。ビールを片手にみんなで歌ったり踊ったりして楽しめます。移動遊園地も設置され、子どもから大人まで楽しめるイベントです。



くるみ割り人形

1870年代から作られているドイツの伝統的な工芸品で、王様や兵士などのモチーフで大小様々なくるみ割り人形があります。クリスマスの代表的な装飾品でもあり、サンタクロースの姿をしたものもあります。あごを開いてくるみを噛ませ、背中中のレバーを下げて割ります。

※これらのプレゼントは、市役所1階市民ホールに展示しています。

ホップが結んだ絆

1988年、マインブルクに拠点を置くホップ商社からマインブルク市に対し、「日本の大手ビールメーカー『アサヒビール』が工場を建設している守谷町との姉妹都市を締結しないか」という話がありました。マインブルク市はこれを快諾。

その頃守谷町でも、ヨーロッパ視察を計画していた県南議員団(当時の町長、町議会議員ら)のもとに、アサヒビールから「ドイツに行くなら、ぜひマインブルクに行ってください」との依頼が。当時、同社は「世界一良質なホップの生産地」として有名なマインブルクからホップを輸入しており、縁のある都市をぜひ訪問してほしいということでした。

そもそもドイツってどんなところ？

ドイツはヨーロッパの中心に位置している国です。9つの国と陸続きなので、電車や車で簡単に外国に行くことができます。公用語である

これを受け、守谷町からの訪問団がマインブルクを訪れると、現地で盛大な歓迎を受け、地元新聞でも大きく報じられました。それからマインブルク市と守谷町との手紙のやり取りが続ぎ、1990年11月3日に、友好と親善の絆を深めることを祈願して姉妹都市宣言(調印)が行われました。



ホップの実

ドイツ語はドイツだけでなく、オーストリアや、スイスの一部でも使われています。

ドイツの北部は海に面している、南部にはアルプス山脈の高い山があります。30年前まで東西分断が続いていたので西と東の違いに焦点が当てられがちですが、北部と南部でも食事や方言の違いが実に大きいのです。地方によって独特な風景や街並みがあり、とても多様性に富んでいる国です。

日本と同じくはつきりとした四季があり、冬のクリスマスや春のイースターといった、宗教に由来する伝統的な年中行事のほか、夏のバーベキューや秋のたき揚げといった人それぞれの季節ごとの楽しみ方があります。



マインブルクの街並み

ドイツ連邦共和国
Bundesrepublik Deutschland

マインブルク市 Stadt Mainburg

マインブルク市章

中央に描かれた植物は、マインブルク名物のホップではなく、白樺の木です。古いドイツ語で「Maie」は白樺という意味で、マインブルク市の名前はそれに由来するという説があります。



ホップの実
白樺の木

マインブルクってどんなところ？

ドイツ南方にあるバイエルン州の州都ミュンヘンから北に約60キロメートル。そこに位置するマインブルク市は、歴史ある教会や赤い屋根が立ち並ぶ旧市街の雰囲気印象的です。マインブルク市役所も赤い屋根で、街並みに馴染む可愛らしい建物です。ビールの原料となるホップの産地として知られています。

特集

守谷



つながる、つづける30年。



1990年11月3日にドイツ・マインブルク市と姉妹都市締結調印式が行われてから、今年で30周年を迎えました。今回は、ホップをきっかけにつながりを持ってから30年間お互いに交流を続けてきた守谷とマインブルクのFreundschaft(友情)を特集します。



守谷×マインブルク

ふりかえる・30年のつながり

1988(昭和63)

守谷町長らマインブルク市表敬訪問



Japanese Gäste informieren sich in der Hopfenstadt Mainburg

Spendenkönig als „Initiative für die Natur“
Moriya & Mainburg 30 Jahre Freundschaft

1989(平成元)

守谷町助役らマインブルク市訪問、姉妹都市締結調印式(9月25日)

1990(平成2)

マインブルク市長ら来町、姉妹都市締結調印式(11月3日)

1992(平成4)

第1回守谷町サッカー少年団、マインブルク市親善訪問

1997(平成9)

マインブルク市柔道チーム来町、マインブルク市

1998(平成10)

ブラズバンドチーム来町、姉妹都市締結調印10周年記念事業

1999(平成11)

守谷町長、文化協会会員ら文化交流、マインブルク市訪問

2000(平成12)

姉妹都市締結10周年記念式典、マインブルク市市民訪問団来町

2001(平成13)

第12回守谷町青少年海外派遣(マインブルク市第1回派遣)

2002(平成14)

守谷市市制記念式典、マインブルク市長ら来市

2003(平成15)

第14回守谷町青少年海外派遣(マインブルク市第2回派遣)

2004(平成16)

マインブルク市市制50周年記念式典、守谷市長夫妻ら訪問

2005(平成17)

つくばエキスポ、レス開業イベント、マインブルク市助役ら来市

2007(平成19)

マインブルク市市民訪問団来市



2008(平成20)

マインブルク市市制10周年記念式典、第20回守谷町青少年海外派遣(マインブルク市第5回派遣)

2009(平成21)

姉妹都市締結20周年記念式典、マインブルク市長ら市民訪問団来市

2010(平成22)

姉妹都市締結25周年記念式典、マインブルク市長ら訪問団来市



2012(平成24)

守谷市市制10周年記念式典、マインブルク市市長ら来市

2014(平成26)

マインブルク市市制60周年記念式典、守谷市長夫妻らマインブルク市訪問

2015(平成27)

姉妹都市締結25周年記念式典、マインブルク市長ら訪問団来市



2016(平成28)

マインブルク市市制10周年記念式典、第27回守谷町青少年海外派遣(マインブルク市第9回派遣)

2017(平成29)

マインブルク市市制10周年記念式典、第29回守谷町青少年海外派遣(マインブルク市第10回派遣)

2018(平成30)

マインブルク市市制10周年記念式典、第29回守谷町青少年海外派遣(マインブルク市第10回派遣)

2019(令和元)

姉妹都市締結30周年記念ウィーク開催



2020(令和2)

※出来事の記事は一部省略しています。

Moriya Mainburg

青少年海外派遣事業

マインブルク市学生
ホームステイ受入

- Answer**
- ①守谷市はマインブルク市よりはるかに大きい都市なので、余暇の過ごし方や楽しい場所がたくさんある印象です。
 - ②焼きそば！
 - ③最初の日から仲がよく、数え切れないぐらいたくさんの素敵な思い出があります。私たちはまるで姉妹のようです！
 - ④初めて日本を訪れたとき、たくさんの人に「彼氏いるの??」と聞かれました。ドイツではその質問を今まであまりされなかったので、とてもびっくりしました。
 - ⑤たくさん影響されていると思います！ 伊織さんと私は毎日英語を使って、チャットや電話で連絡を取っています。日本語や文化に興味があるので、大学生になったら日本に留学したいです。
 - ⑥いつもとても明るく、綺麗で親切な人です。

- Answer**
- ①自然豊かでありながら、都市(ミュンヘン)に近いところが守谷と似ています。
 - ②オープンで焼いたお肉やスパゲティアイスがとてもおいしかったです。
 - ③最初の2日間はオリビアの学校に行き、生地からピザを一緒に作ったことが一番の思い出です。学校にピザを焼くための窯があり、出来立てはとてもおいしかったです！
 - ④フェスティバルの夜にいろいろ食べ物を出してもらったのですが、そこで出たスイカがとてもおいしく、私1人で10切れくらい食べました。周りから驚かれ苦笑いでしたが、今でもスイカを見ると私を思い出してくれるようで「スイカ、見つけたよ、伊織はどこ?」と連絡をしてくれます(笑)
 - ⑤自分がやりたいと思ったことには何でも挑戦できるようになり、自分に自信ができました。
 - ⑥オリビアは私と同じ年ということもあり気が合い、今でも毎日連絡を取っています。初めて会ったとき、ずっと手を握っていてくれました。とても優しい子です！



2018 年守谷市訪問団員
オリビア・ファルケさん



これからの今までの伊織さんでいてください。再会して一緒にドイツ・ミュンヘンに行くのを楽しみにしています！

オリビアたちは私にとって本当の家族みたいな大切な存在です。この先もお互いの国を行き来しあえるような素敵な関係を築いていきたいです。



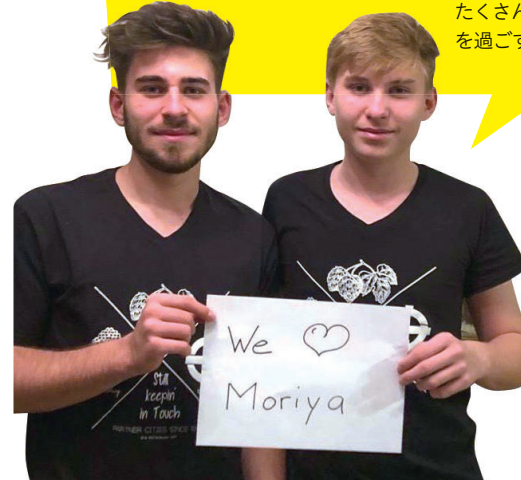
2019 年マインブルク市派遣団員
吉田伊織さん

市では、市内中高生に国際交流を体験してもらうため、平成2年から青少年海外派遣事業を実施しています。国際姉妹都市であるマインブルク市とアメリカ合衆国のグリーリー市に、毎年交互に派遣団を派遣しています。滞在期間中は現地の一般家庭にホームステイして、まるで家族の一員になったかのように過ごします。また、両姉妹都市から訪問団が来市した際には、同様にホームステイを体験してもらいます。

守谷市・マインブルク市
それぞれの学生派遣団員に質問しました!

- Question**
- ① マインブルク(守谷)の印象は?
 - ② 現地でおいしかった食べ物は?
 - ③ ホストファミリーとの思い出は?
 - ④ 滞在中のおもしろかったことは?
 - ⑤ 海外派遣の経験は今に役立っている?
 - ⑥ ホストファミリーはどんな人?

- Answer**
- ① みなさん親切な人ばかりでした。
 - ② おこのみやき(ベネディクト)、しゃぶしゃぶ(アンドレアス)。
 - ③一緒にテニスやたくさんのおもしろいゲームをしたことと友情関係です。
 - ④僕らマインブルク男子はバイエルン州の伝統的な民族ダンス「Schuhplattler (シュープラットラー)」を練習して披露し、続いて日本人の男の子たちと一緒に踊ってもらいました。全員があっという間に踊りこなしたことに驚きました。
 - ⑤日本に行ったこと、そして凌大さんの家にホームステイしたことは素晴らしい思い出です。「守谷」とか日本語の単語を聞くと、自然と思い出が蘇ってきます。毎年、クリスマスのときお互いにプレゼントを送っていて、それもまた素敵な関係だと思います。
 - ⑥凌大さんはとても真面目で親切で、話が面白い男の子です。一緒にたくさん笑って楽しいひとときを過ごすことができます。



2018 年守谷市訪問団員
ベネディクト・ゾレダーさん(左)
アンドレアス・ゾレダーさん(右)

- Answer**
- ①歴史ある建物や石畳が多く、暖かみのある色で屋根が統一されていたり、メルヘンな印象を受け、とてもワクワクしました。
 - ②ゾレダー兄弟のお母さんが作ってくれた、ビーフシチューのような味で、パスタのようなものが入っている料理です。
 - ③滞在中にちょうどベネディクトくんの誕生日を迎え、誕生日の瞬間が訪れる午前0時ぴったりにケーキを食べてお祝いしたのは楽しい思い出です。サッカーの練習にも参加させてもらい、イメージどおり、皆さんとても上手でした。
 - ④滞在の初日に、食べきれないくらい大量のお菓子と飲み物を、屋根裏部屋に用意してくれました。帰りにスーツケースにパンパンに詰めて帰ったのを覚えています。
 - ⑤自分の力でコミュニケーションが取れたことは自信になり、外国人と話すときに物怖じしなくなりました。たと言語が通じなくても、ジェスチャーで伝えています。
 - ⑥2人とも明るくて活発。とても優しく接してくれました。



クリスマスにはメッセージカードとプレゼントを贈り合っています。将来は世界と関わるような仕事をして、また2人に会いたいと思います。



2017 年マインブルク市派遣団員
下之園凌大さん



守谷市国際交流協会(MIFA)

平成元年7月、守谷に住む外国人の方々とともに親しく交流したいとの思いから市民主体の国際交流協会が発足。守谷市在住の外国人の方々ととの交流会や駐日外国大使の講演会、ホームステイ受入などを行っています。毎年の訪問団受入・海外派遣にも協力しています。

Mifa

姉妹都市締結
30周年を記念した
動画も公開中です



会長 小川一成さん

マインブルク市は、10m以上にのぼるホップの壁が連なる素晴らしい街です。ホップ農家さんのお宅を訪問したときに、家族中が楽器を奏でて歓迎してくれ、心温まる街だと思います。

吉田篤子さん

マインブルクの皆さんとはまだ守谷町のときに、我が家でホームステイを受け入れてからの長い付き合いです。訪問したときには、家族のように接してもらい、とても居心地の良い滞在をさせていただきました。メルヘンのような街マインブルクは、私のヨーロッパでの心のふるさとです。

マインブルク市長

ヘルムート・フィヒトナーさん



守谷市とマインブルク市のパートナーシップが長期間にわたって見事に維持され、定期的に交流が行われていることを誇りに思っています。

新しく選出された市長*として私の目標の一つは、守谷市と守谷市国際交流協会と連携しながら、これまでの30年と変わらない献身の精神で努力し、この姉妹都市関係を継続させることです。さらに、守谷市を初めて訪問するときは、守谷市民と日本の文化に触れることも非常に楽しみにしています。

両市の交流に積極的に貢献してくださった全ての方々に感謝申し上げます。市の間の絆は個人の努力によって成り立って発展するものです。これからもよろしく願います。
※2020年5月1日就任

マインブルク市から
友好関係を振り返る
動画をいただきました!



本物派 or プラスチック派？

ドイツ人のクリスマスツリーの好みに関しては、はっきりと「本物のモミの木派」と「プラスチックツリー派」に分かれます。年明けに市町村がモミの木を回収して処分します。クリスマスまで売れなかったモミの木のツリーの一部は、地元の動物園に寄付されて象の餌になることもあります。



クリスマスは愛の祭

自分の家族に対しての愛だけではなく、広い意味で「人類愛」として、クリスマスにボランティア活動に取り組む人が多いです。老人ホームでコンサートを開いたり、生活に困っている人のために炊き出しを行ったりなど、活動内容はさまざまです。



忘年会はやりません

ドイツでは忘年会と新年会の文化がありませんが、従業員のためにクリスマスパーティーを開く会社が多いです。パートナーや家族も参加できる豪華な食事を開催したり、同僚同士でイベントやクリスマスマーケットを楽しんだりします。



マインブルクのクリスマス



マインブルク市では、毎年市内の中心部にクリスマスの飾りやイルミネーションを設置します。クリスマスシーズンの始まりである11月末から1月初めまで、市庁舎をはじめ街全体が明るく光っています。今年のイルミネーション期間は11月29日から2021年1月6日までです。市内にある3カ所の教会もこの期間中にライトアップされます。毎年イルミネーションを増やしていて、今年は、グリース広場の高さ8メートルのクリスマスツリーに新しいLED電飾を飾る予定です。例年12月初旬の週末にマインブルク市のマルクト広場でクリスマスマーケットが開催されます。市内のさまざまな団体が、ホットワインなどの温かい飲み物や、パンに挟んだソーセージや焼いたお肉、クレープ、クッキーなどを屋台で売っています。そして、趣味で手編みの靴下や木造のオブジェ、石けんや自然化粧品を作っている人たちが商品も売っています。大人も子どもも楽しめるマーケットです。



ドイツのクリスマス

Weihnachten in Deutschland

マインブルク市があるドイツでは、クリスマスは24日～26日の3日間です。25日と26日はドイツ全国が祝日で、連休中は多くの人が帰省します。クリスマスは、家族と一緒に過ごす温もりに満ちた静かな年中行事で、雰囲気は日本のお正月に似ています。

対照的に、大晦日は友人と集まって花火を打ち上げる賑やかなイベントです。クリスマスは元々キリスト教の行事ですが、子どもが喜ぶイベントなので、ドイツでも無宗教の家庭がお祝いすることも多いです。

12月中に各地で開催されるクリスマスマーケットは、寒い冬の季節の楽しみの一つです。

クリスマスケーキは
食べない!?

ドイツでは、クリスマスにケーキを食べる習慣がありません。ドライフルーツやナッツが入っている「Stollen」や、スパイスが効いた「Lebkuchen」、手づくりのクリスマスクッキー「Plätzchen」などの日持ちする焼き菓子を食べます。



2 チキンも食べない!?

クリスマスにチキンを食べる習慣もあります。日頃あまり食べないガチョウや七面鳥などのご馳走を食べます。クリスマスに食べるか、25日や26日に食べるかは家庭によって異なります。



MORIYA 滞在記
国際交流員 シュテファニーさんの

クリスマスの香り

いつの間にか12月になり、クリスマス季節がやってきました。今年、日常は新型コロナウイルスによって大きく左右され、例年ドイツ全国で開催される賑やかなクリスマスマーケットも、中止するところが多いようです。ただし、クリスマス自体は多くのドイツ人にとって、マーケットのほかにもさまざまな楽しいことがある年中行事ですので、全てコロナに奪われてしまうわけではありません。

例えば、クリスマス限定のお菓子は欠かせない物の一つです。それらがドイツのスーパーの棚に並ぶのは、まだクリスマス気分が盛り上がりがない9月頃です。販売開始時期は、毎年少しずつ早くなっている気がします。

「早すぎる！ 一体誰が12月前に買うんだ!？」とぶつぶつ言って腹を立てる人もいて、大げさに言うとも早めに買うのはまるで犯罪のように扱われています。思い出深いスイツの季節感へのこだわりが強く、ドイツ人は感情的になりがちです。でも本当に、一体誰が買うんでしょうか…？



ここで告白します。私は早めに買います。特に、ジンジャーブレッドに近い味の何種類ものスパイスが効いたlebkuchen^{レイブクヘン}という焼き菓子が大好物で、店に現れたらこそこ

そ買い物かごに入れ、商品をレジのベルトコンベアに置いた後、有罪判決のように感じる周りの目を気にしながら少しおろおろしてしまします。逆に他の人が同じように早めに買っているところを見ると、「やるね！」と心の中で応援して、妙な仲間意識すら感じます。一年中食べても飽きない自信があります、クリスマスが過ぎると、このお菓子は姿を消してしまします。そのおかげで、また徐々にLebkuchenが恋しくなつて、秋が近づくとクリスマス時期が待ち遠しくなります。

私にとってスパイスの香りには冬の思い出がたくさん詰まっています、懐かしさと安心を同時に感じさせてくれます。「代表的なスパイスといえば？」と聞かれたら、「シナモン」と即答します。季節を問わず使われているスパイスですが、冬になるとより一層美味しく感じませんか？

帰省できなくても、シナモンの香りさえあればまるで実家に帰ったように感じます。季節の香りの魔法ですね。

